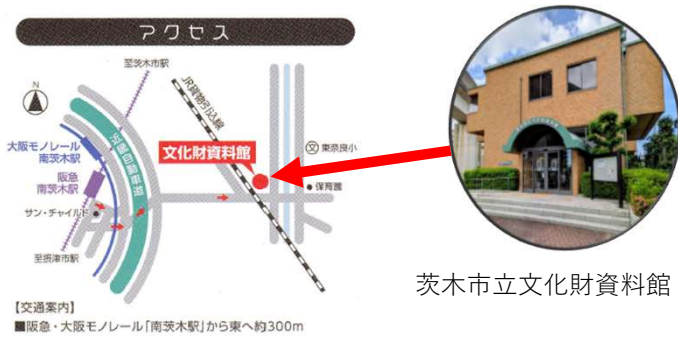


説明 : 高橋さん (茨木市立文化財資料館)
 参加生徒 : 20名 CA2名
 日時 : 2026年5月22日13時30分～15時
 場所 : 茨木市立文化財資料館 阪急南茨木駅 徒歩 6分

午前中の座学後に茨木市立文化財資料館まで移動しました。
 資料館は完全な形を保った石製鋳型が発見された東奈良の地に東奈良遺跡や時代ごとに沿った茨木の歴史、暮らしのなかで使われた民俗資料など先人たちが残した貴重な文化財を展示しています。
 この資料館の高橋さんに東奈良遺跡を中心に説明して頂きました。



東奈良遺跡
 弥生集落と銅鐸生産



昭和49年に
 流水文銅鐸鋳型発見



東奈良遺跡は昭和46年に小中学生によって発見されました。
 縄文時代からはじまる集落で弥生時代に繁栄しました。環濠、居住域、工房域、墓域、水田などがありました。
 東奈良の銅鐸の流通は豊中、香川、大阪平野周辺、伊勢湾に広がっています。
 ただ、高槻・安満遺跡の様に公園施設で残っていないのは残念です。
 他に茨木市は太田茶臼山古墳、阿武山古墳、中川清秀、片桐且元、川端康成などまだまだ奥が深いですね。